

〈基本情報〉

所在地：湧水町
年 齢：44歳（R2.11就農）

〈経営概要〉

品目：肉用牛（繁殖）
経営規模：繁殖雌牛 50頭
（内10頭預託分）
子牛 25頭



繁殖雌牛

〈就農のきっかけ〉

元来、動物が好きで、将来は動物に囲まれて生活したいという夢があり、農業や畜産にも興味があったことから、会社勤めを辞めて就農することを目指した。

農業を始めるにあたっては、鹿児島県や鹿児島県農業・農村振興協会に相談して、第三者農業経営継承により、令和2年11月に就農した。

① 就農から現在までの状況

〈就農時〉

- ・農業技術等に関しては、前経営者から1年間の技術研修を受け、その後、独立して経営を開始した。
- ・畜産経営のノウハウについては、就農以前に配合飼料の配送業に従事していた時に知り合った畜産農家の方々から、課題解決の助言や指導を受けている。

〈現在〉

- ・前経営者から10頭を預託され、現在は繁殖雌牛50頭を飼育している。
- ・現在、農場については、借り受けているが、いずれは全てを自己資産とし、経営を安定させたい。



子牛

② これまで苦労した点

- ・経営移譲時より10頭ほど増頭したため、粗飼料（牧草等）が不足し、購入せざるを得なくなった。
- ・作業用の機械が全般的に経年劣化しており、作業効率が悪いので更新する必要がある。
- ・飼料や資材の価格高騰や子牛価格の下落が経営を圧迫している。

③ 就農して良かった点

- ・自分のやりたかった動物を相手にした仕事に従事できていること。
- ・自営業なので、作業のやり方など自分のペースで仕事ができること。

④ 今後の目標

- ・将来は、経営の安定を図るため、現在の2倍程度（100頭）の飼育を目指している。
- ・農場の施設や機械を更新して作業効率を上げ、利益増大を図っていきたい。
- ・雇用を行うなど、地域に貢献できる経営者になりたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・就農にあたり、周りの人から「本当にやっていけるのか」との話もあったが、反骨精神で頑張った。強い覚悟があればやっていける。

＜基本情報＞

所在地：大崎町

年 齢：44歳（H28.7就農）

＜経営概要＞

品 目：施設野菜

面 積：ピーマン 23a



上村さんご夫婦

＜就農のきっかけ＞

会社員として働いていたが、以前から農業に興味があり、いつかは農業を始めたいと思っていた。

農業をやるなら地元の大崎町でとの思いから、平成28年7月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・農地及びハウスを借受けてピーマン栽培を開始した。
- ・子育て中であるため、他の作物よりは時間が作りやすいとの話を聞きピーマンを選定した。
- ・何もわからない状態で就農したが、JAの営農指導員からの指導を受けたり近隣の農家にも相談したりして、栽培技術を学んだ。

＜現在＞

- ・病気が発生し収穫量が減少した年もあったが、試行錯誤しながら収穫量アップを目指している。



ピーマン

② これまで苦労した点

- ・農業経験がないまま就農したため、栽培技術の習得に大変苦労した。

③ 就農してよかった点

- ・家族との時間をもちながら、自分がやりたかった農業ができること。
- ・地域の生産者と関わり合いを持って、地域の農業に少しでも貢献できていることにやりがいを感じている。

④ 今後の目標

- ・栽培技術の向上及び病気・害虫の発生を抑えることにより、単収18トンを目指すとともに収穫量を安定させたい。
- ・県の指導農業士に認定され、今年から研修生を受け入れる立場になったこともあり、町にピーマンの新規就農者を増やし、地域の活性化に繋がりたい。



ハウス内の様子

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・研修等には積極的に参加し、いろいろな人の意見を聞き、その中で自分に合った方法を見極めてほしい。
- ・年々、栽培方法も変わっていくので、前年踏襲だけではなく変える勇気も必要になるため、強い意志を持って頑張ってもらいたい。
- ・ゼロからのスタートは初期投資が大きく厳しい面も多いので、いろいろな支援等を利用しながら就農をスタートしてもらいたい。

＜基本情報＞

所在地：東串良町

年齢：22歳（R2.10就農）

＜経営概要＞

品目：施設野菜

面積：ピーマン 10a



ピーマン

＜就農のきっかけ＞

小さい頃から祖父が農業機械を扱っている姿を見ており、自分でも機械を操作したいという思いから農業に興味を持ちはじめ、小学生の時には就農を考えていた。

中学生になっても思いは変わらなかったため、高校は農業高校へ進学し、農業への理解を深めていった。県立農業大学校への進学も考えたが、祖父の希望もあり高校卒業後の令和2年10月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・就農1年目は両親がきゅうりを栽培していたので、親元できゅうりの栽培技術を習得した。
- ・2年目に10aのハウスを祖父から譲り受けて独立。作目をきゅうりか、祖父母が栽培しているピーマンかで悩んだが、周囲の勧めや将来的に環境制御技術を導入して単収を増加させたいとの思いから、ピーマン栽培に取り組むこととした。
- ・祖父が鹿児島県の指導農業士（現地トレーナー）であることから、日々、祖父の指導を受けながら栽培技術を教わった。

＜現在＞

- ・就農3年目となり、これまでに祖父から受けた指導を実践しつつ、毎日が勉強と思いながら作業を行っている。
- ・昨年が単収19トンとまずまずの成果を出せたので、今年はそれを上回れるように取り組んでいる。

② これまで苦労した点

- ・うどんこ病や斑点病が多く発生したことから、農薬の散布方法など病害虫の対策に苦慮している。
- ・自動開閉装置を導入しているが、温度管理には常に気を配っている。
- ・いろいろ苦労はあるが、祖父をはじめ先輩方から技術指導を受けられるので、他の就農者より恵まれていると感じている。

③ 就農して良かった点

- ・自分が頑張った分だけ結果として現れるのでやりがいがある。
- ・生産したピーマンの収穫量が多かった時は嬉しい。



ハウス内の様子

④ 今後の目標

- ・栽培面積を現在の10aから数年後には20aへ規模を拡大したい。拡大した10aのハウスには環境制御装置を取り入れて、収量の違いを比較し、今後の農業経営に活かしていきたい。そのためにも炭酸ガス発生装置など、環境制御の勉強をしていきたい。
- ・農業経営を安定させるためには収量を増やすことが重要なので、環境制御を上手に活用していきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・自分が栽培して収穫した作物が、消費者から喜んで買ってもらった時は本当に嬉しい。消費者に美味しい作物を届けるという気持ちは何よりも大事である。
- ・研修等学習する機会がいろいろあると思うので、積極的に参加して情報収集を行ってほしい。
- ・農業は休みも少なく、大変なこともあるが、自分が頑張った分だけ成果が返ってくるので、目標をきちんと持って頑張ってもらいたい。

＜基本情報＞

所在地：錦江町
年 齢：31歳（R3.10就農）

＜経営概要＞

品目：施設野菜
面積：いちご 16a



いちご苗のほ場

＜就農のきっかけ＞

農業機械メーカーに勤めていたころ、いちご農家に農機具の修理で訪問した際、ハウスの中に入った時のいちごの香りに大変感動し、いちご農家になることを決意した。妻の承諾を得られたことからいちご栽培の知識も全くない中で10年間勤務した会社を退社し、令和3年10月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・就農のきっかけとなったハウスと同じ場所で就農したいと考え、農地やハウスを探していたところ、以前の仕事で繋がりがあった農家の紹介で現在の場所を借りることとなった。
- ・土地については、農業委員会を通じて、ハウスは暖房機を含め個人契約で借り受けた。
- ・いちご栽培のノウハウもないまま就農したことから、近隣の先輩農家に技術のアドバイスを受けながら1年間営農した。

＜現在＞

- ・いちご栽培で最も重要なハダニ類の害虫対策として、天敵であるカブリダニ類を活用する総合的病害虫・雑草管理（IPM）を取り入れるなど、環境に配慮したいちごの提供を行っている。



いちごの苗

② これまで苦労した点

- ・農業について勉強した経験がなかったことから、就農1年目の昨年は、何をすれば良いのか全くわからない状態であった。
- ・収穫期は、妻などに手伝ってもらいながら作業を行っているが、時期によっては朝4時から夜8時までの長時間の作業となる（雇用は、現在のところ考えていない）。
- ・就農2年目の現在も、いちご栽培の技術については未熟な点が多く、悪戦苦闘の日々である。

③ 就農して良かった点

- ・会社勤務時は顧客対応などで神経をすり減らす日々だったが、植物相手の仕事となり精神的に楽になったこと。

④ 今後の目標

- ・先輩農家等のアドバイスを受け入れながらいちご栽培の技術向上に努め、現在の16aの作付面積で20,000パック（1日当たり最大240～250パック）の出荷量を目指す。
- ・いちごは大変デリケートな作物なので、収穫時に果肉を傷つけないようにし、収穫口スを最小限にとどめる技術を日々研究している。
- ・出荷できないいちごを加工品にする6次産業化にも取り組み、将来は青果及び加工品を販売する店舗を経営したい。
- ・就農して3年が勝負と考えて技術を磨き、その後もやっていける自信がついた時は、今は他で働いている妻と一緒にいちご栽培を行っていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・近隣の先輩農家などのアドバイスを受け入れ、常に思考錯誤を繰り返しながら自分の技術を作り上げることが重要である。
- ・自分ひとりで営農はできないので、近隣の方々と常に繋がりを持った農業者を目指してほしい。

<基本情報>

所在地：南大隅町

年齢：29歳（H28.8就農）

<経営概要>

品目：肉用牛（繁殖）

経営規模：繁殖雌牛 45頭、

育成牛 3頭、子牛 25頭



馬場園さん一家

<就農のきっかけ>

県立農業大学卒業後、法人の牧場で2年間働き、その後も酪農ヘルパーなどを経験し、これらの経験を今後の人生に活かしてみたいとの思いが募り、母のふるさとである南大隅町で肉用牛繁殖農家として、平成28年8月に就農した。

① 就農から現在までの状況

<就農時>

- ・牛舎は空き牛舎を町内の畜産農家から、牛は先輩繁殖農家から妊娠牛10頭を格安で譲ってもらい営農を開始した。
- ・公庫の融資を活用し、最初は30頭、2回目に20頭を導入した。また、町の事業等を活用し、牛舎1棟を新築するとともに、既存の牛舎の改築を行った。
- ・高校、県立農業大学で畜産の勉強を行うとともに、その後の法人牧場で経験を積み、就農後は先輩繁殖農家のアドバイスを受けながら営農している。

<現在>

- ・牛温恵（分娩予知通報システム）や分娩監視カメラなどのスマート農業機器を導入し、営農における負担軽減の取組を行っている。
- ・以前は輸入乾草を使用していたが、現在は、牧草を生産している先輩繁殖農家からラッピングされた牧草ロールを調達している。



繁殖牛舎

② これまで苦労した点

- ・就農6年目であるが、就農までの牛の導入や牛舎の整備もスムーズであり、就農後の分娩における事故が少ない（令和3年度は3頭、本年度は現在まで0頭）など、営農は順調だが、昨今の輸入飼料の高騰による支出増に苦慮している。

③ 就農して良かった点

- ・独立就農後は自分の考えで営農し、失敗も自分の責任となることから、自分の力で仕事を行っているという充実感を十分に得られている。

④ 今後の目標

- ・「頭数よりも血統を重視した畜産経営を行うべき」との先輩繁殖農家からのアドバイスがあり、現在は規模拡大を考えていないが、今後はタイミングを見極めた上で法人化し、従業員を雇用することも検討したい。
- ・近隣に耕作放棄地などが出てきた場合は、農業委員会などを通じて借り受け、牧草の生産を行うことも検討している。
- ・高能力牛の受精卵移植（ET）を行い、多くの優秀な黒毛和牛を生産するなど新たな技術を導入したい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・自分は綿密な情報収集により、就農希望地の空き畜舎を見つけることができた。就農する際は早めに様々な情報を収集することが必要である。
- ・先輩繁殖農家から格安で牛を譲ってもらい、現在も様々なアドバイスを受けながら営農に活かしている。人との繋がりを重要視してもらいたい。